

JAIF

国際結婚を考える会

Japan Association of Intercultural Families

会報誌第**11**号 www.kokusaikazoku.com/
jaif@kokusaikazoku.com

【特集】 『世界を旅する国際家族』



Page	CONTENTS	
	【特集】 『世界を旅する国際家族』	
3	● <u>「大人になってから知ったベルギーの魅力」</u>	大庭パスカル（会員）
7	● <u>英国南部のシーサイドタウン (Southern Seaside Towns of England)</u>	富澤さおり（会員）
10	● <u>「オーストラリアの観光スポット」</u>	ジュリアン佳代 (会員)
13	● <u>「私の気に入った観光地のレポート」</u>	岡野 佳子（会員）
16	● <u>帰っていく場所アフリカ</u>	中西みのり（会員）
21	● <u>そうだ、巡礼しよう ～母と歩いた聖ヤコブの道～</u>	清 麻桐（編集委員）
25	◀ <u>マレーシアの懐かしい味</u> ▶ <u>Mrs.ラマのチキンカレー</u>	小暮朋子（会員）
29	<u>Culture Crossing</u> <u>世界の移民から選ばれる日本へ ー国籍法11条1項の不条理ー</u>	清水 裕子（会員）
33	<u>マンガで届ける国際結婚</u>	三好 郁也(会報係)
34	<u>JAIFイベント報告</u>	イベント係
35	<u>編集後記 次号予告</u>	会報係

父日本人、母ベルギー人のダブル。

外交官だった父親の仕事で世界各地で生活をしたのち高校生で来日。

大学卒業後法律事務所勤務を経てフリーランスとして日仏語通訳/翻訳家として独立。通訳の経験を活かし、2014年日本と欧州間のビジネスサポートする(株)サンデイスを設立。現在55歳。日本人の夫と愛犬テオと共に東京で暮らしている。

私は日本人の父親とベルギー人の母親との間に生まれました。1968年、日本の高度成長期の真ただ中です。父は外交官だったので、小さい頃からフランスやスイス、韓国など様々な国で生活をする経験をしてきたのですが、もう一つの祖国であるベルギーには、残念ながら一度も住んだことはありません。祖母や叔母が住むベルギーのブリュッセルに会いに行くことも当時は容易なことではなかったもので、もう一つの自分の国をあまり知らないまま育ってきました。そうして育った子供は、少なくとも私は、ベルギーの事を「何となく」しか知らないことに後ろめたいような、何かが欠けているような、コンプレックスに近い感情を持っていたと思います。それでいて、それを親に言う事もできませんでした。子供ながらにベルギーに住めない、行けないのは仕方がないことだとわかっていたからです。

大人になってからテレビでベルギーの話をする機会を頂いたり、ベルギー観光局のお仕事やベルギー大使館や在日ベルギー企業のイベントの司会などをやらせていただくようになって、ようやくベルギーの事を深く知り「ベルギー人」と自分の中で言えるようになったのですが、当時は小さい頃にもっと親に色々聞けば良かったと、とても後悔しました。

今は時代も変わり、インターネットで様々な情報を得られるようになったので、国際家族の皆さんの中に私と同じように祖国を知らないまま生活しているお子さんをお持ちの方は少ないかもしれませんが、もし似たような状況で子育てをされているのであれば、子供がもしかしたら私と同じように遠慮しているかもしれません。是非ご家庭で積極的に「もう一つの国の話」をたくさんしてあげてください。きっとお子さんは私と同じように欠けたパズルが埋まるような、もう一人の自分を見つけたような感覚になるはずです。

前置きが長くなりましたが、私が遅まきながら知ったベルギーの魅力をご紹介します。ベルギーは、美しい建築物、歴史的な観光地、芸術と文化、美食、公園、ショッピング、カーニバルなどのお祭りなど様々な魅力を持っています。

「大人になってから知ったベルギーの魅力」

大庭パスカル（会員） ベルギー在住

それだけ多彩な魅力があるのは、面積が四国の1.5倍という小さな国でありながら、北部はオランダ語を話すフラマン地方、南部はフランス語を話すワロン地方、そして首都のブリュッセルではオランダ語とフランス語の2か国語が公用語であり、考え方も文化も違うゲルマン系民族とラテン民族が互いの文化や歴史の違いを認め合い、尊重しながら同じ国民として共存しているからです。これはヨーロッパでも非常に珍しいことで、風景を見ましてもフランダース地方とワロン地方、それぞれ全く違った個性豊かで魅力的な街並みを見ることができます。



ストリートアート

フランスの影響を強く受けた南のワロン地方の街並みは、古い建物や石畳の通り、ロマンチックな雰囲気の特徴であり、歴史的な魅力を感じることができます。一方、フランダース地方の街並みは、ギルドハウスや運河が特徴的で、オランダの影響を受けた美しい建築物を見ることができます。またワロン地方とフラマン地方は地理的な特徴も異なります。ワロン地方はアルデンヌの森や美しい自然環境が広がっていて、自然愛好家やアウトドア派の人々に人気ですし、平坦な地形が広がっているフラマン地方は、自転車での移動や街歩きに適した環境が整っており、それぞれに違った体験ができるのもベルギーの魅力です。

そして私の大好きな首都ブリュッセルの魅力は、古き良きヨーロッパの魅力と現代的でおしゃれな地区を徒歩圏内で観光できるところです。

まずはビクトル・ユーゴーが世界で最も美しい広場と称賛したグランプラス広場に行ってみましょう。世界遺産にも登録されているこの広場は、ゴシック様式の美しい外観が特徴的な市庁舎、その向かいには壮大なステンドグラスや彫刻で飾られたミシェル・サン・グデュレ教会、豪華なギルトハウスなど、レースのような美しい装飾が施された豪華絢爛な建築物が広場を囲っています。グランプラスのすぐ近くには、ブリュッセルのシンボル、可愛らしい小便小僧の像が立っています。毎回違う衣装で出迎えてくれるのも楽しみの一つです。



小便小僧@visit.brussels



小便小僧@visit.brussels

大庭パスカル（会員）ベルギー在住

グランプラス周辺には、名物のムール貝やベルギービールを楽しむことができる多くのカフェやレストランもあります。ベルギービールは、2000種類以上あると言われており、さわやかなホワイトビール、カクテルのようなフルーツビール、酸味の強いランビックビールや修道院で修道士たちが作る芳醇なトラピストビールなど、一つとして同じ味わいのものがないほど多彩です。ビールが苦手という方でも必ずお気に入りのベルギービールが見つかるはずです。



ムール貝



グランプラス@visit.brussels



チョコレート

そしてなんといってもベルギーと言えば、チョコレート。ブリュッセルのいたるところにショコラティエがありますが、私がお勧めするのはグランプラスから歩いて20分ほどのところにあるサブロン広場。ピエール・マルコリーニや、ゴディバ、ノイハウスなど世界的に評価されているショコラティエがずらっと軒を連ねていて、見るのも食べるのも楽しいショコラティエ巡りができます。

アール・ヌーボー建築を楽しむのもブリュッセル観光の楽しみの一つ。ヨーロッパで最も古いと言われるギャラリー・サンチュベールでは、ショッピングをしながら、アール・ヌーボー芸術を同時に楽しむことができます。

「大人になってから知ったベルギーの魅力」

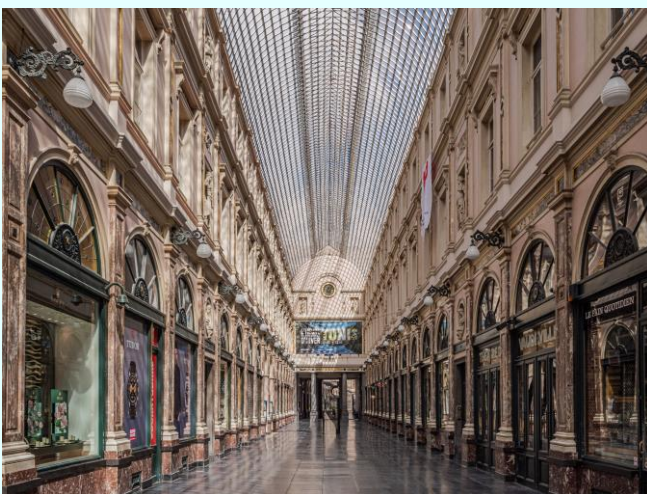
ブリュッセルには多くの美術館や博物館もあります。シュールリアリズムで知られるルネ・マグリット美術館やルネッサンス派の名画が展示されている王立美術館は芸術好きなら見逃さないですし、タンタンやスマーフなど漫画キャラクターが描かれたストリートアート巡りや漫画美術館もおすすめです。



Art Nouveau

ベルギーは、このようにアート、建築、美食など魅力が多彩ですが、最大の魅力は「人」です。歴史的に多様な文化や言語を共存させてきたベルギーには、互いの多様性を尊重するという価値観が根付いています。その多様性を誇りに思っており、その価値観を観光客ともその魅力を分かち合いたいと考えているので、ベルギー人は観光客に対してもとてもオープンで友好的なんです。街中を歩いていると気軽に「ボンジュール」と話しかけてくれますよ。ベルギーを訪れた際には、是非地元の人々との交流を通じてフラマン地方とワロン地方、そして首都ブリュッセルの異なる魅力を堪能してみてください。

私のように是非皆さんにもベルギーが大好きなってもらえたらと願っています。



ギャラリー・サンチュベール
@visit.brussels



ワッフル

英国南部のシーサイドタウン (Southern Seaside Towns of England)

富澤さおり (会員) ロンドン在住

20数年アメリカに在住した後、現在はアメリカ国籍の夫とニューヨーク生まれの息子とロンドン在住。ニューヨーク州弁護士。

我家は2019年夏にニューヨークからロンドンに移りました。引越し当初はイギリスに来たから沢山ヨーロッパ旅行をしようとワクワクしていましたが、2020年の冬にはコロナ感染が広がり旅行どころの話ではなくなりました。国外旅行はまだまだ難しい時期が続き、この際だからイギリス国内を廻ってみようということで訪れたのがイギリス南部のシーサイドタウンです。車で1週間程かけて廻ってみました。

最初の目的地は、セブンシスターズ (Seven Sisters)です。イギリス海峡に面した白亜の石灰岩でできた断崖で、世界中から観光客が訪れます。真っ白な崖が7人の女性が並んでいる様に見えることからこの名前が付いたとか。セブンシスターズへ行くルートはいくつかありますが、私達は全景を見渡せるという西のシーフォードヘッド(Seaford Head)側から向かいました。意外と緩やかなルートを進み、途中で綺麗な花を楽しんだりベンチで一休みしたりして行くと、真っ白で巨大な崖の絶景が見えてきます。そのままカックミアヘブン(Cuckmere Haven)の海岸まで進むルートは、実は途中でセブンシスターズに着く前に川によって寸断されているのですが、運良くその日は干潮で歩いて簡単に渡れました。海岸に降りると目の前に巨大な白い崖が連なっていて圧倒されます。一生に一度は見ておくべきと言われるのも頷けます。幸いお天気も良く、青い空と白い壁のコントラストがとてもクリアで素晴らしい景色を堪能できました。



セブンシスターズ (Seven Sisters)

海岸沿いにはビクトリア様式のホテルが軒を連ねており、イギリスのビーチリゾート！の雰囲気満載です。もっと有名な Brighton よりこじんまりしていて落ち着いた雰囲気、ゆったりとした空気が流れていました。我達もプロムナードを端から端まで散歩して、ビーチでリラックスしたりしてのんびりできました。

セブンシスターズでのハイキングの後には、海沿いのリゾート街イーストボーン(Eastbourne)にステイしました。街の中心部から程良い距離にピアがあり、ビーチに沿ってプロムナードが続いています。



イーストボーン(Eastbourne)

英国南部のシーサイドタウン (Southern Seaside Towns of England)

富澤さおり（会員） ロンドン在住

イーストボーンから東へ運転する事1時間弱、次に訪れたのはヘイスティングス(Hastings)という伝統的な港町です。ビーチには停泊する漁船、そして古い木造の建物(Net Hutsという魚網の保管庫)があります。その日に取れた魚介類を売っている小屋のようなお店も数件あり、地元の方々が買い物をしていました。



海沿いにはフィッシュ&チップスのレストランも沢山並んでいるので、テイクアウトしてビーチでお昼にしました。ビーチから程近いオールドタウンには歴史を刻む古い建物が並んでいて、とても可愛くてイギリスらしい雰囲気でした。小高い丘の上からはこの街並みが一望できます。

ヘイスティングス(Hastings)

ヘイスティングスから更に東へ30分、イギリス南部の海岸沿いに来たらライ(Rye)は必ず立ち寄りたい街です。中世の趣が残るこの小さな街は、時間をかけても2時間程で街全体を歩いてしまいます。ライは中世時代に密輸業者達が英仏海峡を渡り寄港する港として繁栄したそうです。古い塔、そしてチューダーとジョージアン様式の建物に囲まれていると本当に中世に戻ったかの様。

有名なマーメイドストリートにも行ってみました。丸い小石が敷き詰められた石畳がとても印象的なこの道沿いに、老舗ホテル兼パブ、マーメイドインがあります。このホテルは中世時代に密輸業者達の溜まり場だったという事です。



ライ(Rye)

10代男子がいる我家は、可愛い街並みはほどほどにという事で、ライ近辺のアウトドアエリアに。先ず向かったのがライハーバー自然保護区(Rye Harbour Nature Reserve)。自然溢れるこの場所では、4000種以上の野生動物や植物が生息しているという事です。朝からライの町歩きをして少し疲れていたのので、一番簡単な2マイルルートのウォーキングを楽しみました。途中、野生動物を観察する隠れ場所の小屋(Hide)がいくつもあり、覗き穴から外が見られる様になっています。

英国南部のシーサイドタウン (Southern Seaside Towns of England)

富澤さおり（会員） ロンドン在住

次に立ち寄ったのがキャンバーサンズ(Camber Sands)というイギリスでは珍しい砂丘のあるビーチです。我家は夫がビーチ好きなのと、砂のビーチはイギリスではなかなかお目にかかれないので行ってみました。私たちが行った時はあまり混んでおらず（普段は夏休みになるとすごい人だかりだとか）黄金の砂のビーチをゆっくり散歩できました。足裏で感じられる細かな砂がとても気持ちよかったです。

英国南部シーサイドの旅の最後の目的地は、以前から興味があったドーバー(Dover)です。ドーバー海峡はイギリスとフランスを隔てるイギリス海峡の最狭部で、ヨーロッパへの玄関口的感覚です。ドーバー港からはフランス行きのフェリーが頻繁に出ていて乗り入れを待つトラックがズラッと並んでいました。ドーバーでの目的地はドーバー城とホワイトクリフ（ドーバーの白い崖）。

先ずはお城に向かって坂道をてくてく登って行きました。イギリスの要塞として歴史上とても重要な役割を果たしてきたこのお城は、イギリス最古にして最大のお城とも言われています。敷地内はとても広く見所も満載だったので、4時間位過ごしてしまいました。お城見学の後には有名なホワイトクリフへ。海岸線に広がる断崖は白い石灰石で出来ていて高さは110メートルに達するとの事。早速、崖に沿ったハイキングルートを進みました。断崖近くでも柵など設置していないので、気をつけながら歩いていましたが、崖の近くでピクニックをしている家族連れやカップルもちらほらいてびっくり！夕方は小石が敷き詰められたドーバービーチに出てくつろぎました。



ドーバー(Dover)

イギリスというとロンドンが先ず頭に浮かびますが、地方にも歴史があり、かつ自然にあふれる場所が沢山あると実感できる旅になりました。イギリスに来る機会がある方には是非訪れて頂きたいエリアです。

「オーストラリアの観光スポット」



ジュリアン佳代（会員）オーストラリア在住

日本で生まれ育ち、高校卒業後にオーストラリア、クイーンズランド州の大学へ進学。卒業後は東京、シドニー、ブリスベンやメルボルンに住み、現在は2度目のブリスベン在住中。オーストラリア人の夫、大学生の息子と中学生の娘の4大家族

私が住むオーストラリアは大陸（島国!?) の為、数多くの世界遺産が点在します。金融業界勤務25年以上の私ですが、実は最初の学士はマーケティング専攻。新卒採用して頂いたオーストラリア政府観光局では、たくさんの素敵なオーストラリアの観光スポットを学ぶ機会を頂きました。ご紹介したいスポットは山のようにあるのですが、今回は比較的行きやすい、でも行って後悔しないスポットをご紹介します。

オーストラリア、クイーンズランド州首都ブリスベン。現在はカンタス航空が羽田空港からブリスベン空港まで週3回直行便を飛ばせています。10月以降はコロナ渦前の週7便に直行便が増える予定ですが、成田空港からの直行便となります。ヴァージンオーストラリア航空も羽田空港からケアンズ経由で、全日空やJALは羽田空港からシドニーやメルボルン経由でブリスベンに飛ぶことができます。日本との時差は1時間、直行便だと東京から8時間半程度なので、比較的飛びやすい距離ですね。

まずは、モートン島。

<https://www.australia.com/en/places/brisbane-and-surrounds/guide-to-moreton-island.html>

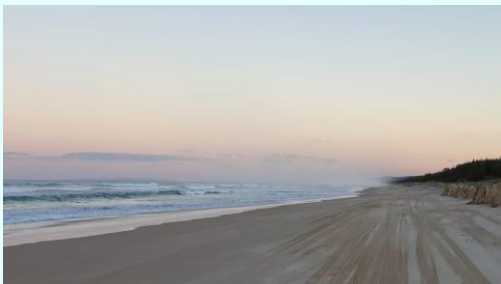
ブリスベン港から1日4本の往復フェリーが出ています。片道45分程度。日帰りで行くことも出来、週末スノーケリングをしに行ったり、砂丘すべりをしたり、野生のイルカに餌を与えたりしてたっぷり遊ぶことが出来る、小さな子供がいる家族には最高の観光地と言えると思います。我が家も子供達が小学生時代は、ちょこちょこ遊びに行っていた島です。リゾートホテルもあれば、自炊も出来るマンション滞在型の宿泊施設もあり、滞在期間やご自分のスタイルに合わせて選ぶことが出来ます。マンションの場合は食料品は持参するのをお勧めします。

「オーストラリアの観光スポット」

ジュリアン佳代（会員）オーストラリア在住

次にブリスベンから車で北に約3時間行くと、フレーザー島という世界遺産の砂で出来た島があります。4WDでなければ島に車で渡ることは出来ませんが、手前でレンタカーすることも出来ます。我が家は夫がキャンプ好きなので、彼のクイーンズランド州向けにカスタム仕様されたトヨタ・ランドクルーザーに乗って行きます。

<https://www.australia.com/en/places/brisbane-and-surrounds/guide-to-fraser-island.html>



フレーザー島のビーチ

私が日本で高校卒業後にオーストラリアの大学へ進学するきっかけにもなった、長〜く続く白い砂浜。フレーザー島も例外でなく、長く綺麗な白い砂浜が続く海岸線を、朝夕には何とも言えない綺麗な朝日と夕日に彩られます。

砂がコンパクトにまとまっている海岸線は初心者でも問題なく走れるのですが、ちょっと内陸に入ると柔らかい砂道が多く、毎回初心者の方が埋まっているのを助けることになります。まあ、それも旅の楽しみ、皆親切ですから必ず誰かが助けてくれます(一本道なので助けないと前に進めません)。



フレーザー島の道で立ち往生する車を救助する夫と息子



4WDで走るフレーザー島のビーチ

海岸を走行する際は、左通行、前から対向車が来る場合は左ウインカーを出しながらすれ違います。また、小型飛行機が同じビーチで発着しているので、こちらも気を付けながら走行します。

フレーザー島には「ディンゴ」と呼ばれる野生犬が生息しているので、ごみの処理、小さなお子さんは常に目を離さないように気を付けてください。ディンゴに小さい子供が襲われる事件も何度となく起こっているので、中学生以上のお子様がいるご家庭向けの観光スポットです



野生ディンゴ

「オーストラリアの観光スポット」

ジュリアン佳代（会員）オーストラリア在住

「怖い！」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、これも自然、ここにしかない神秘的な湖や、砂島にろ過された湧き水が太平洋にでる川で泳ぐのも他の島では体験できない貴重なものです。



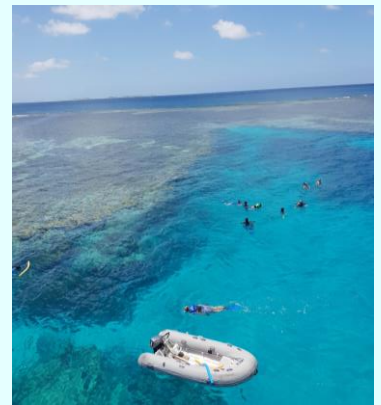
フレーザー島の淡水（湧水）湖、マッケンジー湖で遊ぶ娘と姪っ子達

最後に、レディ・マスグレイブ島。

<https://www.bundabergregion.org/lady-musgrave-island>

ブリスベンから車で北に約4時間、バンダバーグという海沿いの町があります。この海岸沿いでは毎年10月～1月に掛けて海ガメの産卵が、1月～4月に掛けては子亀が産まれて海に向かって走っていく様子を見ることが出来ます。海ガメの産卵は夜しか見られないので、この日はバンダバーグに宿泊です。

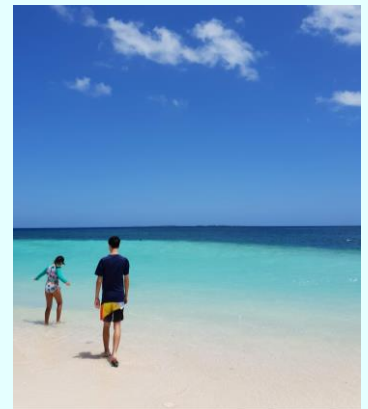
バンダバーグのMon Reposで海ガメの産卵を見た翌日は、フェリーに乗ってグレートバリアリーフの南端、無人島のレディ・マスグレイブ島に行ってみましょう。片道2時間半は長いように感じますが、島に到着すると海の透明度の高さに、来るまでに掛かった時間を忘れてしまいます。無人島ですが、市役所経由で予約してキャンプすることは可能です。日帰りで行く場合は、島を歩いて巡るツアーや、スノーケリングやダイビングを楽しむことが出来ます。



レディ・マスグレイブ島を囲むサンゴ礁

コロナ渦直前に日本から遊びに来ていた父を連れて行ったバンダバーグとレディ・マスグレイブ島、オーストラリアの大自然の代表の一つと言っても過言ではない場所は私にとって最高の思い出になった場所です。

この自然を次世代にも繋げたいと思わざるを得ない感動的な美しさでした。是非、一度行かれてみてください。



レディ・マスグレイブ島のビーチと子供達

「私の気に入った観光地のレポート」

岡野佳子（会員）アメリカ在住

福岡出身。カナダでESL, シアトルで国際ビジネスの留学で日本を離れて30年以上。夫はパキスタン出身のアメリカ人。次女が幼稚園に行き始めた年に大学に戻り、電気工学を勉強。卒業後エンジニアとして働きながら電気工学の修士を取得。最近長女がフランス人と結婚し、ますます国際家族になりました。

私の仕事は出張が多くまた私は旅行が大好きなので、これまでにヨーロッパ各地、アジア諸国、オーストラリア、アメリカ国内各地に仕事や休暇で行きました。今も仕事でイギリスのバーミンガムに来ていてこれを書いています。では、今まで訪れた場所で特に気に入った街を三つ紹介したいと思います。

イスタンブール

まずはイスタンブール。2013年の春、次女が高校の研修旅行で2週間ほど南アフリカに行った時にこれはチャンスと夫婦で興味があったイスタンブールに行きました。昔流行った曲、飛んでイスタンブールと007の映画で出てきたグランバザールのイメージしかなかったのですが、実際に目にした光景は圧巻でした。

数千年の歴史を持ち東と西を結ぶ街、そこにそびえるブルーモスクやアヤソフィア大聖堂は今までに見たことがない建造物で感動しました。



ブルーモスク
参照元
Wikipedia

特にアヤソフィア大聖堂は、東ローマ帝国首都コンスタンティノープルにコンスタンティヌス2世によって建設が始まったキリスト教の大聖堂でその後1453年にオスマン帝国の制服でモスクになり、第一次世界大戦後オスマン帝国は滅び、アヤソフィアは博物館になりました。

私たちが訪れた時の大聖堂の内部はキリスト教画やイスラム教の装飾物が共存していてとても興味深いものでしたが、現在はエルドアン大統領命でモスクに戻ったようですね。

グランバザールは狭い路地の中に色とりどりのスパイス、カーペット、ジュエリー、モザイクアートの陶器、ターキッシュデライトなどのお菓子が並んでいてとても活気がありました。

またボスフォラス海峡クルーズで両岸に立ち並ぶモスクや宮殿を眺め、黒海の入り口近くまで行けたのは楽しかったです。



アヤソフィア 参照元
<https://holeinthedonut.com/2014/01/23/photo-interior-of-hagia-sophia-istanbul/>

「私の気に入った観光地のレポート」

岡野佳子（会員）アメリカ在住

猫があちこちにおいてお店の人などがエサを上げていたり、またガラタ橋上でたくさんの人が釣りをしている大都市にそぐわない微笑ましい景色でした。フードスタンドで飲んだ搾りたてのザクロのジュースがとても美味しかったのを今でも覚えています。

ポルト・シントラ

次に紹介する街は、ポルトガルのポルト、2015年夏の終わりに長女と行きました。ポルトに住んでいる長女の友人に街を案内して貰えたので自分たちだけでは行けない大西洋岸のビーチにドライブしてビーチを散策。この海の前にはアメリカの東海岸があるのだからって思ったり、レストランで頂いた釣りたての魚のグリルは日本人好みのシンプルな味付けで美味しかったです。

ポルトでは、ポルトワインの老舗メーカーの一つ、サンデマンのワインセラーの見学、試飲をしました。このメーカーのロゴがおしゃれでガイドもロゴと同じファッションで楽しかったです。もちろんお土産にポートワインを購入しました。

あと、ポルトにはJKローリングがハリーポッターのお話を思いついた Livraria Lello という本屋さんがあります。とても古くて綺麗で内装がハリーポッターの映画に出てきた図書館に良く似ています。

ポルトからリスボンに電車で移動して、リスボンから電車で40分ほどのシントラという街のお城も見学しました。ペナ宮殿、ムーアの城跡、シントラ国立宮殿そしてレガレイラ宮殿。これらをバスや徒歩で見て回ったのですが、なかでも山の上にある天空の城とも言われるペナ宮殿はカラフルで今までに見たことのないタイプのお城でした

外壁についている彫刻はとても面白かったです。私はお城を見るのが大好きで、ペナ宮殿はドイツのノイシュバンシュタイン城、日本の姫路城、フランスのベルサイユ宮殿、オーストリアのシェーンブルン宮殿と私の見たお城ベスト5の一つです。



ペナ宮殿

参照元

[Wikipedia](#)

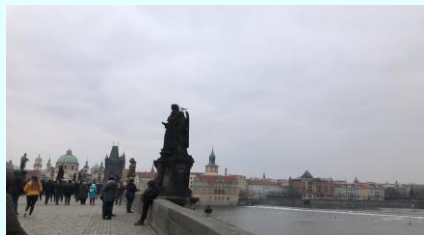
「私の気に入った観光地のレポート」

岡野佳子（会員）アメリカ在住

プラハ

最後に紹介するのが、プラハ。プラハは日本に住んでいた時から行きたいと思っていた街の一つで、2019年1月にそのチャンスが訪れました。仕事でドイツのドレスデンに数日滞在していたのですが、週末に一日だけ休みが入り一人でプラハに行ってきました。

ドレスデン駅から乗った電車は古くて、しかも国境を超えと思うとちょっと不安になったのですが無事にプラハの駅に着くとそういう心配もなくなって駅から徒歩で旧市街広場を通り、カレル橋を渡ってプラハ城前まで歩き、お城を外から見学しました。カレル橋、そしてそこから見るプラハ城はとてもロマンチックでした。ずっとその景色を見ていたかったけど、何せとても寒くて時間もなかったので後ろ髪を引かれる思いで駅に向かいました。



カレル橋



プラハ駅前



旧市街広場の時計塔

チェコの伝統的なお菓子、トゥルデルニークは焼きたてで美味しかったです。機会があれば、暖かい季節にゆっくりとプラハを訪れたいです。プラハ近郊の世界で一番美しいと称される街チェスキークルムロフも合わせて訪れることができたらと思います。

余談ですが、ドレスデンでDresdner Philharmonieの演奏をオペラハウスで視聴したのですがとても素晴らしかったです。



Trdelnikを焼いているところ



焼きたてのTrdelnik

今回ご紹介したのは全部ヨーロッパの街ですが、ここ数年日本に帰国したら実家だけでなく地方にも旅行に行くようになりました。青森の奥入瀬溪流や十和田湖、トリエナーレで四国の直島に、そして今月は仙台に。どれも素敵でした。日本に住んでいた時は国内旅行よりも海外に目が向いていましたが日本にもまだ行ったことのない所がたくさんあるので色々旅行したいし、いつまでも旅行ができるように健康でいたいですね。



プラハの街のマーケット

帰っていく場所アフリカ

中西みのり（会員）アメリカ在住

東京生まれ。シカゴ大学経営大学院(MBA)卒業。1995年より、ミネソタ州でブランドマーケティング、サプライチェーン、プロジェクトマネジメントに従事。2008年よりサンフランシスコ在住。現職はシリコンバレー大手IT企業のディレクターとしてグローバルチームを統括している。家族は建築士のウクライナ系カナダ人の夫と猫2匹。仕事以外のパッションは、料理、旅行、ピアノと動物環境保護。

初めてのアフリカ - 2000年両親と訪れた南アフリカ

私の両親は飲食店を経営し多忙だったため、子供の頃どこかに連れて行ってもらった記憶はなく、成人してから両親と旅行をした事はありませんでした。その状況がガラリと変わったきっかけは私の渡米です。1988年に留学のため渡米してからは、私が日本に里帰りする代わりに、世界のどこかで落ち合い一緒に旅するようになりました。ヨーロッパ各国、中南米、オーストラリア、香港、台湾、そしてもちろんアメリカ国内をたくさん旅しましたが、一番思い出に残っているのが2000年9月に訪れたアフリカです。南アフリカ、ジンバブエ、ボツワナ3国を3週間かけて回りました。

両親は成田-バンコク経由で、私は当時住んでいたミネアポリス-シカゴ-マイアミ経由で飛び、ケープタウンの空港で合流しました。一生に一度のアフリカ旅行という事で奮発した両親はファーストクラスで来たのでおいしいものをたっぷり食べて睡眠も十分で元気澆刺。満席のエコノミークラスで30時間飛んで疲労困憊の私とは対照的でしたが、遙かアフリカの空港で無事落ち合い、手を取りあって1年ぶりの再会を喜びあいました。



筆者と母、南アフリカの希望峰にて

1988年からツアーでなく自力で行く旅を毎年経験してきた両親は旅慣れし度胸もついて来たので、豪勢かつ冒険心満載の旅にしようと考え、3週間の日程のうち1週間はレンタカーでケープタウンからポートエリザベスまで移動しました。父が運転し、まだカーナビがない時代でしたので私が隣で地図を広げ、母が日本から持ってきた炊飯器で炊いたご飯で作ったおにぎりを食べながら迷ったり治安の悪いタウンシップに迷い込んだりしながらも、おぜん立てされたツアーでは味わえない南アフリカを体験できました。両親と一緒に見たアフリカの海、夕日、満点の星、野生の動物と自然は途方もなく美しく、私はアフリカの魅力に感電してしまったのです。

再びアフリカへ - 2017年ナミビアとボツワナ

2001年に結婚した夫は、若いころから自転車でオーストラリア、ニュージーランド、フィジー、タヒチ、中国、ベトナム、ヨーロッパを旅した強者で、冒険心では私より数段上手でしたがアフリカには行った事ありませんでした。「アフリカに行こう」と言っても「アフリカ＝お金を持った高齢者が行くサファリ」の数式が頭にあり首を縦に振りませんでした。彼の気持ちが変わったのは、アフリカでも比較的治安の良いナミビアとボツワナでは、キャンプしながらセルフドライブが出来ることを知った時です。冒険心旺盛でオフロードドライブが大好きな夫にとってアフリカ大陸をキャンプしながら運転することは心躍るチャレンジでした。



ランドクルーザーでキャンプ。奇岩の転がるナミビアのスピッツコッペの麓にて

早速色々調べて予定を組み、2017年8月サンフランシスコ-チューリッヒ-フランクフルト-ヨハネスブルグ経由でナミビアの首都ウィントフックへ飛びました。ウィントフックでベッドとキッチンを搭載したトヨタランドクルーザーをレンタルし、いざ出発。まずはナミビアを出て隣国のボツワナを目指し国境近くのキャンプ地で一泊しオカバンゴデルタへ向かいました。両親とボツワナを訪れた際はチョーベ国立公園に行きオカバンゴデルタに行く時間がなかったので、夢にまで見たオカバンゴデルタを訪れることが出来て感無量でした。

ナミビアの国土の大半は砂漠と高原で、大西洋岸には幅100kmのナミブ砂漠が広がり、その東側は海拔1000～2000mのナミブ高原が国土の半分以上を占めていて東南部はカラハリ砂漠です。一日中運転していてすれ違う車が一台と言う日も珍しくありませんでした。ナミビアの野生動物は砂漠で生き抜くための進化をしており、象、ライオン、キリンなど何日も水を飲まずに生き残るすべを知っています。ランドクルーザーを走らせながら遭遇する動物を見ると過酷な環境で生き抜く強さとたくましさに心を打たれました。



ナミビアの涸れ川、ファブ川を行く

帰っていく場所アフリカ

中西みのり（会員）アメリカ在住

両親と行ったアフリカは冒険心にあふれながらもハリウッドスター御用達のロッジやホテルに泊まったので、とても豪華で贅沢でしたが、今回の旅は自炊キャンプでトイレもシャベルで穴を掘って用を足すサバイバル旅行。全く対照的なアフリカでしたが都会育ちの私には初めての体験で毎日が新鮮でした。そして私の思惑どおり夫もアフリカの魅力に取りつかれ、帰りの飛行機では「またアフリカに行こうね！」と話しあいました。

3度目のアフリカ - 2020年タンザニアへ

アフリカは広大で地形自然も多様ですが、「アフリカ」と言ってもまず一般の人々が思い描くイメージはタンザニアのセレンゲティでしょう。ナショナルジオグラフィック等ドキュメンタリーフィルムの多くはセレンゲティで撮影されていますが、それだけセレンゲティは広大で野生動物の宝庫なのです。アフリカに魅せられたものとしてセレンゲティに行かないわけにはいかない、と意見が一致して次のアフリカ旅行はタンザニアに決めました。



セレンゲティの象

タンザニアは南アフリカやボツワナほど治安は良くありませんが、注意さえしていれば襲われる可能性は低いので、ランドクルーザーを借りてセルフドライブする事にしました。しかし毎日トイレの穴を掘って、ホースの水がシャワー替わりの生活は嫌だという私の意見を聞いた夫は、自炊キャンプと贅沢なロッジをミックスする予定を立ててくれました。2020年2月、サンフランシスコ-シアトル-アムステルダム経由でキリマンジャロ空港へ飛びました。この時期新型コロナウイルスが中国で見つかったというニュー



セレンゲティのライオン

スが出始めていましたが、パンデミックになるとは誰も予想はしておらず空港は活気に満ちていました。セレンゲティへのゲートウェイに当たるアルーシャと言う町でランドクルーザーを借りてセレンゲティ南部に向かいました。

帰っていく場所アフリカ

中西みのり（会員）アメリカ在住



遊ぶ子象

マサイ語で「果てしない草原」を意味するセレンゲティですが、その名のとおり果てしなく広がる草原を初めて目にした時はその雄大さに圧倒され涙が出るほどでした。

セレンゲティ南部のンドウトウと言う地域を目指すにしたがって、道路状況がどんどん悪化していきました。タンザニ

アには雨季と乾季があり、1月―2月は乾季に当たるのですが、異常気象の影響はアフリカにも及んでいて1月に毎日大雨が降り、我々が行った2月は雨は止んでいましたが道は洪水状態でどこに道があるかもわからない状態でした。プロのサファリドライバーでもタイヤがぬかるみにとられる最悪の状態でしたが、セルフドライブの我々は何とか自力で切り抜けるしかありません。右に滑り左に滑りスピンを繰り返しもはやこれまで！と思う事が何十回とありましたが何とか宿泊予定のロッジについた時は日が暮れていました。私は恐くて怖くてずっと泣いていましたが、夫は泣き言を言わず運転に集中して頼もしく立派でした。

南アフリカ、ジンバブエ、ボツワナ、ナミビアでもたくさんの野生動物を見ましたが、セレンゲティはレベルが違うというかスケールが違うというか、とにかくものすごい動物の数です。2月はシマウマ、ケープバッファロー、ヌーが出産する時期で、草原に何万頭と散らばっています。そして生まれたての赤ちゃんを狙うライオン、チータ、豹などが狩りに出てきます。私は動物が大好きでバンビやダンボなどの子供むけディズニー映画さえもトラウマで見られないので、可愛らしいインパラの赤ちゃんが母親チータにつかまり、5匹の子供チータにあっという間に食べられてしまうのを見た時、母ライオンが歩けなくなった子供ライオンを置き去りにしていくのを見た時、胸が締め付けられました、「かわいそう」とか「残酷！」とかいう人間の価値観を押し付けるのは冒涔だと思いました。アフリカには野生動物の秩序がありルールがあるのです。アフリカに行くと人生観が変わると言いますが全くそのとおりですね。



セレンゲティのヒョウ

4度目のアフリカ - 2022年、再びタンザニアへ

コロナパンデミックがようやく落ち着いてきた2022年に、ヌーの大移動を見るため再びタンザニアに行きました。ヌーの大移動とは100万頭を超えるヌーと数十万頭のシマウマが1年をかけて、セレンゲティからケニアのマサイマラ国立保護区にかけて広がる大サバンナの中を時計回りに移動する習性を指します。2020年2月に行った時は出産時期だったので、今回は川渡りが行われる9月に行きました。



ヌーの大移動

YouTubeを検索すれば川渡りのビデオは何百と出てきますが、実際にあの場にいなければ何万頭のヌーの体臭を嗅ぎ、体温を感じ、呼吸を聞き、緊張感と恐怖心を感じる事は出来ません。生きていくためには避けられないヌーたちの命がけの川渡りは壮大な自然のドラマで、私たちは感動で震え言葉もなく見ておりました。



ヌーの川渡り

最後に - 母とアフリカ

夫と私のアフリカ熱は高まる一方で、ついに自分たちのランドクルーザーを買う事になりました。ベッドとキッチン付きのランドクルーザーをレンタルするのは安くなく、自分たちの好みにカスタマイズした車をアフリカで買った方が経済的なのが解ったからです。まだ体力と気力があるうちにアフリカ大陸を走破する夢を実現しようと思っています。

アフリカに魅せられたのは自然の美しさはもちろんですが、旅行が好きだった母にとってアフリカが一番輝きを持った思い出だった事もあります。2年前に亡くなった母は亡くなる直前までアフリカの思い出話をしていました。母にとって特別だったアフリカは私にとっても特別な場所なのです。これから何度もアフリカに行くことになるでしょうが、いつも心の中で母を連れて行くつもりです。

そうだ、巡礼しよう ～母と歩いた聖ヤコブの道～

清 麻桐（編集委員）

<プロフィール>

留学先のマサチューセッツ州で出会ったアメリカ人の夫と2002年に結婚。2018年から国立自然史博物館に勤務。専門は無脊椎動物学・分子生物学。家族は夫と犬一頭。民族料理探訪、旅行、ダイビングが趣味。

きっかけは、20年近く前に母が購読していたカトリック教会の雑誌で読んだ「聖ヤコブの巡礼道」、キリストの使徒ヤコブの遺骸が祀られているというスペイン北西部のサンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂に至る巡礼道の特集でした。カトリック教会の三大巡礼地といえばローマ、エルサレム、そしてサンティアゴ・デ・コンポステーラ。なぜか母はローマやエルサレムよりもサンティアゴに行ってみたくと思ったのだそうです。



ポルトガル人の道 ガリシア州レドンドーラの南

私は少しスペイン語が話せるので勇んで母にお供することにしました。しかし、どこから巡礼を始めたらよいのか、巡礼の条件など当時はわからないことだらけ。そのうち母方の叔父（母の弟）の闘病、のちに母自身の闘病が重なり巡礼どころではなくなりました。再び余裕ができてきた2014年あたりから母は中谷光月子氏の旅行記『サンティアゴ巡礼へ行こう！』を読んでイメージを固め始めました。2015年に手頃な値段で1日2食付き宿泊および荷物の運搬込みのセルフツアーが見つかり、これなら二人で行けそうだと思います、2016年5月に母と117kmの巡礼をすることになりました。



クレデンシアルの裏に印刷されている聖ヤコブの巡礼路網。太い線がフランス人の道。イベリア半島の西端を北上するのがポルトガル人の道。

サンティアゴ巡礼の最もよく知られたルートはフランスからピレネー山脈を越えてスペイン北部を横断する「フランス人の道」ですが、中世の巡礼は皆住んでいるところから巡礼を始めたため、実際「聖ヤコブの道」はヨーロッパを網の目のように覆っています。私たちは欧州2か国を一度に見られて一粒で2度美味しい、ポルトガルから北上してサンティアゴに至る「ポルトガル人の道」を選びました。1日目はポルトガルのポルトをぶらぶら歩いて一泊し、翌日列車で

そうだ、巡礼しよう ～母と歩いた聖ヤコブの道～

清 麻桐（編集委員）

ブラガに寄り道してブラガ大聖堂を見てから国境の町ヴァレンサで下車し、タクシーでミーニョ川を越えてスペイン側のトゥイという町に入り、その翌日巡礼を開始しました。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂から巡礼の認定を受けるには、徒歩・騎馬なら大聖堂まで最短100km、自転車なら最短200kmを継続して旅した証拠を提出する必要があります。証拠となるのが、巡礼パスポートとも呼ばれる「クレデンシアル」という書類に行く先々の宿泊施設、バー、レストラン、教会に置いてあるスタンプを押すことで、少なくとも1日スタンプ一つ、最後の100km（自転車巡礼は200km）になると1日スタンプ2つが必要となり、ちょっとスタンプラリーのような面白さがあります（コロナ禍を境に、スマホアプリの電子クレデンシアルも使えるようになりました）。



クレデンシアルにためたスタンプが巡礼の証拠。



サンティアゴへの方向と距離を示すモホンという道標とぶどう棚

サンティアゴに着いて巡礼認定を受ける時に巡礼の目的を述べる必要があります、巡礼路の文化または歴史に興味があるという世俗的な目的を選ぶこともできますが、宗教的な巡礼とはもらえる認定証に違いがあります。私たちはホテル泊かつ必要最小限の荷物を持って歩くだけで楽しましたが、巡礼路には巡礼が格安で泊まれるホステルのようなアルベルゲという宿泊施設があり、毎晩アルベルゲに泊まり

り、持ち物全部を入れたバックパックを背負って歩く巡礼もたくさんいます。マーティン・シーン主演の映画『星の旅人たち』を観ると現代の巡礼の様子がよくわかります。

そうだ、巡礼しよう ～母と歩いた聖ヤコブの道～

清 麻桐（編集委員）

私たちが歩いた巡礼路はガリシア州のリアス式海岸の奥を北上します。ガリシア州は「緑のスペイン」と呼ばれるほど湿潤な土地で、毎日雨の予報がありましたが幸い歩くのが辛くなるほどの大雨にはサンティアゴに着くまで遭いませんでした。巡礼路はほぼ古代ローマ皇帝アウグストゥスが作らせた第19ローマ街道をたどり、アウグストゥスの時代から今までの約2000年間この道を歩いた無数の旅人たちが偲ばれます。現代の巡礼とは不思議なもので、巡礼路という装置を歩くだけで誰もが特別な目的を持った旅人になります。巡礼の多くは機能的なスポーツウェアに身を固め、



石の十字架（クルセイロ）



サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂の聖なる扉の前で。2016年は特別な聖年だったため25年に一度だけ開く聖なる扉が開いていて、ここから中に入ることができました

バックパックを背負って人によってはサンティアゴ巡礼のシンボル帆立貝とウォーキングポールまで持った出で立ちから一目で遠来の人とわかりますが、道ですれ違う地元の人々に挨拶をして「Buen camino!」（よい巡礼を!）と道中の無事を願う言葉を受け、巡礼同士でも同じ挨拶を交わしながら、清々しい気持ちでサンティアゴを目指すことができます（人によっては靴擦れや怪我による故障との戦いもありますが...）。巡礼路上の景色を楽しみながら時には母と今や昔の話をし、来し方行く末を考え、時には黙々と瞑想するように歩く。巡礼とは、これまで経験したことのない旅のかたちでした。カラセドという小さな町で出会った小さな幼稚園の先生が言った、「サンティアゴ

そうだ、巡礼しよう ～母と歩いた聖ヤコブの道～

清 麻桐（編集委員）

巡礼をすると人生の何かが変わるので「すよ」という言葉が忘れられません。その時は本当に変わるのかなと思ったのですが、巡礼中に母と仕事の悩みについて話したことがきっかけで転職や帰化を考えるようになったので、後から振り返ると確かに本当になったのです。

トゥイを出発して7日目、母はシリア内戦の終結など世界平和の祈りを唱えながら一步一步サンティアゴを目指し、昼ごろついにサンティアゴ・デ・コン



サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂（ウィキペディア）

ポステーラの大聖堂に到着。巡礼事務所で巡礼の長い列に並び、2時間待って証明書を発行してもらいました。夕方の巡礼ミサではボタフメイロという巨大な香炉が動くのを楽しみにしていたのですが、あいにくこの日ボタフメイロを動かす装置が故障しており、安全を期したためボタフメイロは見られませんでした。この晩は怪我もなく巡礼旅行が無事成功したことを祝い、母と奮発してガリシア名物セイヨウカメノテ（フジツボの仲間、高級食材です）をつまみに乾杯しました。

翌朝は少しサンティアゴのお土産を見たりしてのんびりし、午後にポルト行き的高速バスに乗りこみ、1週間かけて歩いた距離をあっという間にポルトまで戻りました。同じバスに乗った韓国からの巡礼夫妻とおしゃべりし、「お母さんと巡礼とは、あなたは孝女（ヒョニョ）ですね」と言われ、こちらは母をだしにして旅行に行かせてもらったような



ガリシア料理。セイヨウカメノテ、ミックスサラダ、魚介のエンパナーダ

ものですから照れくさくなりました。ポルトで2泊して二人で気の利いたお土産を買ったり、マトジーニョス地区の静かなビーチでしみじみと大西洋を見たりしてからイベリア半島に別れを告げました。

《 マレーシアの懐かしい味 》

Mrs. ラマのチキンカレー

小暮朋子（会員）

学生として来日した中国系マレーシア人の夫と1979年に東京で結婚。
1980年、82年と二人の娘を出産。1986年に夫の故郷のマレーシア、クラン市に帰り
一家で暮らした後、1989年に日本に戻り、日本語教師として働く。東京在住。
会員歴は会創立からで43年になる。

私は日本に留学生として来ていた中国系マレーシア人の夫と結婚し、二人の若い娘を連れて、1986年、マレーシアのクランという町に家族で移住しました。夫は母校の中華高校の校長、私は高校で日本語を教えることになりました。マレーシアはマレー系、中華系、インド系の人々が住む複合民族国家です。住む場所によって、民族の構成比も違ってきます。私の家があった地域はインド系、中華系の人々が多かったです。私にとって、マレーシアでの生活は初めて体験することばかりで、刺激的で、毎日が発見の連続で、本当に面白く感じました。特に多種多様な人々がいるので、料理も多種多様な料理がありました。

マレーシアは外食文化が盛んな所で、マレー料理、中華料理、インド料理のレストランや屋台が、いたる所にありました。値段も安く、味も美味しく、宗教的な食べ物の制限がない私は、いろいろな屋台めぐりをして、楽しみました。お料理だけでなく、スイーツも三民族の様々なものがあり、ココナッツミルクが入ったお汁粉はとても美味しかったです。3時ごろになると、家の近くにバナナの天ぷら（ピサンゴリン）の屋台が開くので、子供たちの毎日のおやつにしていました。

家では、毎朝5時ごろ、近くのモスクから大音量で流れてくるアザーンで目が覚めると、お隣の奥さんMrs.ラマがカレーの香辛料をすりつぶす音が聞こえてくるのです。その後、香辛料を炒める音がして、いい香りが隣から流れてくるのです。それが、私の一日の始まりでした。Mrs.ラマはインド系マレーシア人で、早起きして、毎朝、家族のためにいろいろなカレーを作り続けていました。それだけでなく、8時になると綺麗なインドのサリーに着替えて、さっそうと仕事場に出かけていきました。ラマ一家には、本当に親切にしてもらい、当時、6歳、4歳だった娘はとても可愛がってもらいました。そんなマレーシア生活も日本に帰国することになり、3年弱で終わってしまいました。しかし、Mrs.ラマが教えてくれたチキンカレーはマレーシアを思い出しながら今も時々、作っています。

《 マレーシアの懐かしい味 》

Mrs. ラマのチキンカレー

小暮朋子（会員）

Mrs. ラマのチキンカレー



<材料>

鳥の骨付き肉 500グラム

ニンニク3片

生姜2センチぐらい

玉葱 大1個

ジャガイモ大2個

トマト1個

香辛料（クミンシード、シナモンスティック、八角）

マレーシアのカレーパウダー（日本のカレーパウダーでもOK）適量

ココナッツミルク150CC

ローリエの葉3枚

塩

水④ 300CCぐらい

①ニンニク、生姜をみじん切りにする。マレーシアでは、下記の石臼でたたいて、つぶします。



《 マレーシアの懐かしい味 》

Mrs. ラマのチキンカレー

小暮朋子（会員）

②鶏肉は適当な大きさに切り、カレーパウダーをまぶしておきます。



③鍋に油を入れて、クミンシード、シナモンスティック、八角を弱火で加熱して、香りをだします。



④ ③の鍋に玉ねぎを入れ、色づくまで炒め、そこに①の鶏肉を加え炒めます。



《 マレーシアの懐かしい味 》

Mrs. ラマのチキンカレー

小暮朋子（会員）

⑤鶏肉の色が変わったら、水を入れ、カットしたジャガイモ、トマト、ローリエを入れて、ふたをして、25分くらい煮ます。マレーシアですと「カレーリーフ」という葉があるのですが、日本では手にはいらないので、ローリエを使います。



⑥じゃがいもが柔らかくなったら、味を見ながら、塩を加えて、辛さが足りない場合はカレーパウダーを足して、ココナッツミルクをお湯で溶かして、150CCくらい加えてください。ココナッツミルクを加えると味がまろやかになります。弱火で5分くらい煮て、出来上がりです。



マレーシアのカレーパウダーとココナッツミルク

★ターメリックライスと一緒に食べると美味しいです。また、中華系の人は、ビーフン炒めにカレーをかけて食べますが、これがとても美味しいのです。カレーは種類も豊富でマレーシアの国民食と言っていいくらい、三民族共通に食べられています。

世界の移民から選ばれる日本へ — 国籍法11条1項の不条理 —

清水 裕子（会員）



学習院大学史学科在学中、中国河南省鄭州大学留学。JTB勤務を経て、大阪大学大学院国際公共政策研究科修士・博士後期課程修了。米国ジョーンズホプキンス大学・国際研究員、パナソニックカナダ・エグゼクティブアシスタント、ベルギーモリナリ経済研究所・研究員などをへて2019年4月より京都先端科学大学経済経営学部経済学科准教授、2022年より、同大学、ビジネススクール・経済学科、教授。

戸籍謄本は、日本国籍を有することを証明する公的書面です。私は、戸籍にある通り日本生まれ、両親は日本人という純日本人です。しかし、戸籍が存在するにもかかわらず、私は、法務省から不法滞在外国人であるとされ、日本を出国することも、仮に出国できても再度入国することが5年間できないという状態に置かれています。なぜなら1899年明治時代につくられた日本の国籍法11条1項が「外国の国籍を志望して取得した者は日本国籍を失う」と定めているためです。日本政府はこの条項を根拠に、他国籍を取得した日本人から自動的に日本国籍をはく奪しています。2018年3月、スイス等に居住する原告8名が国籍法11条1項は違憲であると提訴しました。2022年12月、私は京都発、日本で3件目の国籍法11条1項違憲訴訟の原告となりました。なぜなら、グローバルな21世紀の世界において、国籍法11条1項が、誰のための何の目的を目指すものなのか一般には理解できない法律となっているからです。この国籍法が修正されないかぎり、日本人で複数国籍を持つ約100万人が、自分の意思に反して、一方的に日本国籍をはく奪され、日本国籍を保持できない、選択しないという状況にさらされ続けるからです。

私は、1999年にアメリカの大学に研究員として留学し、カナダ人と国際結婚し、約20年北米に居住しました。夫が大学教員という仕事柄、世界各国を移動することが多かったこと、私のカナダでの就職・研究における差別・機会等を鑑み、2007年カナダ国籍を取得しました。夫や夫の家族、多くの友人たちも祝福してくれ、ようやく本当の家族、カナダ社会の一員となった気がしました。私と同様に、多くの日本人の友人が、国際結婚し、家族・子供がいます。しかし、複数国籍は国家にとって好ましくないとする日本の国籍法11条1項のため、多くの友人達が居住国の国籍を取得できず、就職での差別や研究資金をもらえない、納税者でありながら選挙権が無いなどの問題に直面しています。さらに彼らの子供たちは22歳に達するまでにカナダか日本かという踏み絵のような国籍選択を迫られます。

世界の移民から選ばれる日本へ —国籍法11条1項の不条理—

清水 裕子（会員）

私は、一生カナダで過ごすものと思っていましたが、2018年夏、父親ががんになり、20年ぶりに永住ベースで帰国する決心をしました。帰国するにあたり、複数国籍の事実を、領事館や日本の本籍地の役所に正直に相談し、法律にのっとり手続きを進めました。2018年10月帰国後には、日本人の実子としての在留許可が下りるはずでした。しかし、帰国後に訪れた本籍地の区役所で、カナダの市民権証に取得「年月」しかなく「日にち」がないという理由で国籍喪失届が不受理となり、在留許可申請の審査がストップしたのです。本籍地の区役所には、3度も足を運び、その都度、市民権証、カナダ・パスポート、市民宣誓式のセレモニアルレターを提示し、カナダの国籍取得が確認できる書類があるのだから、国籍喪失届の不受理はおかしいと主張しました。しかし、区役所は「年月日」の入った市民権証が必要であり取り直してくるようになり、と言い張り、国籍喪失届を不受理としました。このままでは日本の90日間のビザが失効し、国外退去という事態に直面します。その時のストレスと云ったら、毎日、胃が痛み、気がおかしくなりそうでした。

最後の手段として、当時の東京出入国管理局に何度か出向き、在留許可申請は9月から審査に入っていること、区役所での国籍喪失届不受理の経緯、親の介護、就職も決まっていることなど一生懸命に訴えました。事情を理解してくださったのでしょうか、2019年12月14日、東京入管が日本国籍判明というスタンプを私のカナダ・パスポートに押ししてくれました。この処置のおかげで、日本人として生きてゆくことが可能となったのです。私は、2019年4月から京都の大学で年間1000人近くの学生を教育し、税金を納め、それなりに日本社会に貢献しています。しかし、2020年6月、日本のパスポート発給申請拒否をきっかけに、法務省が私のことを不法滞在外国人とし、日本から出国もできないと通告してきました。これは、国籍法11条1項のため、物理的に存在する戸籍は、もはや無効となっており、私は日本人ではない、という理由です。多くの方が理解に苦しむ行政の言い分ではないでしょうか？

複数国籍を悪とする明治時代の法律を引き継いだ国籍法11条1項の存在と、それを根拠に自身の正当性のみを貫こうとする、ちぐはぐは行政の対応により、日本人で複数国籍を持つ約100万人が大きな不便と不利益を被っています。果たして、21世紀の日本国にとって、日本人に複数国籍を認めない根拠はどこにあるのでしょうか？私が住んでいたカナダ・トロント市では、100か国以上の言語が話され、世界から移住した友人たちは当たり前のように何冊ものパスポートを持っています。

世界の移民から選ばれる日本へ —国籍法11条1項の不条理—

清水 裕子（会員）

カナダは、グローバル化と多様性、人権を尊重する国であり、毎年20-50万人の移民を受け入れています。カナダ在住の私たちにとって複数国籍保持は、普通の事なのです。2023年5月、広島で開催されたG7の7カ国中、複数国籍を認めていないのは日本だけです。ドイツは、厳しい国籍法で有名な国でしたが、1999年に出生地主義を取り入れ、2014年からは条件付きで2重国籍を認めるようになりました。さらに、最近では「優秀で勤勉な外国人」の受入れを加速するため、国籍要件を緩めるようになっています。

「優秀で勤勉な外国人」の獲得は世界市場での争奪戦であり、日本の将来にかかわる大きな課題です。日本では少子高齢化が加速しており、労働力確保・経済成長がより困難になるという厳しい状況に直面しています。厚生労働省から今年4月に発表された日本の総人口予測は、現在の1億2600万人から約50年後の2070年には、1億人を下回る8700万人に減るとしています。2020年と比較すると、30%（3人に1人）の人口減少、さらにそのうちの約4割が65歳以上の高齢者となります。政府は、その解決策として、日本に住む外国人が増加し9人に1人が外国人となり、日本人口を下支えするとしています。

しかし、果たして多くの移民が日本に来るのでしょうか？私は、このままでは移民は増加しないか、または減ってゆくと考えます。これまで日本は、移民は必要ないというスタンスで法制度を作ってきました。そのため、政治的な難民とは異なる、多くの経済移民が必要とする職業環境や家族生活のための法制度が整っておらず、魅力的な報酬や家族の教育環境なども他国に比較し非常に劣っています。さらには、日本が、海外から選ばれないどころか、日本の若い世代が賃金の高い海外に流失し、日本を捨て始めたというメディア報道もされています。日本の将来を考えれば、まず日本人である私たちに日本国籍保持継続を認めることで、少なくとも約100万人が安心して日本で活動することが可能となります。複数国籍に対する否定的な姿勢を肯定的な姿勢に転換し、国籍法11条1項が修正されれば、日本人が日本人として海外で思う存分活躍できます。ノーベル賞受賞者である南部陽一郎さん、中村修二さん、真鍋淑郎さんについて、日本のメディアは「日本人がノーベル賞受賞」と報道しました。しかし、この方々は、国籍法によって日本国籍をはく奪されています。もはや日本人ではないのです。

世界の移民から選ばれる日本へ —国籍法11条1項の不条理—

清水 裕子（会員）

移民政策を進めるには、国側が移民を選ぶという現状を改め、世界の人々から選んでもらえる国と社会になる事が必須です。法制度・環境を整え、人間・家族にとって住みやすい、働きやすい、開かれた国になる必要があるのではないのでしょうか？私は経済学が専門ですが、経済学的分析によると、移民が多く多様性のある社会は、経済成長に非常にプラスであるという結果が出ています。21世紀のグローバル化、多様性が重視される中で、国籍法11条1項が修正されないかぎり、海外での経験を積んだ日本社会に貢献できるはずの多くの日本人が、日本国籍をはく奪され、日本国籍を保持できない、選択しないという状況が続くでしょう。

今回の訴訟が、国籍法の本来の目的を議論し、誰のための法律なのか、日本人である私たちから日本国籍をはく奪することによって日本国として何を得るのか、将来日本はどのような移民政策をとってゆくのか、という問題を多くの人が考える契機になれば幸いに思います。

(注：2012年1月以降、カナダ市民権証は、レターサイズで年月日記載がある書式に変更されました。この時、カナダ政府のウェブサイトで市民権証の再発行について調べたところ、所用期間が約6か月以上かかるという情報があり、このことから市民権証再取得での解決は時間的に無理でした。)

マンガで届ける国際結婚

皆さん、こんにちは。会報系の三好郁也です。この度、世話人の方々と一緒にマンガでの国際結婚の発信にチャレンジしました！

僕は現在30歳です。今どきの若者たちはSNSの影響により、文章を読むコトが非常に苦手です。日常生活でも流し読みが主流です。国際結婚について伝える上でも、文章で伝えても読む人は少ないと感じました。興味を持ってもらう為のツールとして、マンガを取り入れてみました！初めての取り組みなので、難しいことばかりですが、色々チャレンジしていけたらと思います！！



海外で子どもを産んだカップルに、こんなハプニングがありました…



続きは
↓のQRコードから
どうぞ～！



Instagramで発信しています！
(若者向けのFacebookみたいなモノです)

★2023年1月～7月のJAIFイベントを振り返る イベント係

◎1月28日（土）2023年度JAIF会員オンライン新年会

14名参加。日本、オーストラリア、スウェーデン等。国際家族ならではの様々な話題を話し合う交流会になりました。皆さまにとって2023年が良い年になりますように。

◎2月25日（土）第8回海外会員オンラインお茶会（親睦会）

アメリカ、フランス、ドイツ、スウェーデンから9名が集まりました。

テーマは「現地での仕事 vs. 日本での学歴や職務経験。国を超え、どんな風に役立った？」海外で専門職で活躍している会員の皆さまの貴重なお話を伺える機会でした。

◎4月16日（日）オンラインイベント JAIF2023年度総会

「国際結婚を考える会」2023年度定期総会を会員限定で開催いたしました。

◎5月26日（金）東日本懇親会ディナー 新宿

8名参加。遠方からのメンバーも集まり、久しぶりの対面での楽しい交流会を持ちました。

◎5月27日（土）オンラインイベント 出版記念トーク

もりきさん、非会員1名、会員10名の参加でした。

「フィリピン移住女性と日本社会—40年のインタラクション」の著者、もりきかずみさんを迎えてお話を伺いました。もりきさんは「国際結婚を考える会」発足当時の会員で1990年以降、アジア女性と日本人男性の子どもの国籍や在留問題、人身売買の犠牲になる母子の支援とフィリピンでの仕事作りを目的に1994年「アジア女性自立プロジェクト」創設、2014年まで代表を務められ、現在もフィリピン人が運営するコミュニティのコーディネーターを務めておられます。

◎6月14日（水）オンライン情報交換会

日本にお住まいだった配偶者を見送られた会員の方々に、亡くなった後の手続きなどについてお話し頂き、参加者からもコメントを頂きました。大変参考になるお話でした。

◎6月23日（金）第9回海外会員オンラインお茶会（親睦会）

テーマ「日本とのつながりをキープするには」（一時帰国も含む）

アメリカ（本土、ハワイ）、ドイツ、オーストラリア、日本から9名の参加がありました。日本を出てから約30年、またはそれ以上になる参加者が多かったです。

「海外暮らしが長くなると、日本とのつながりをキープするために、意識して努力する必要が出てくるのではないのでしょうか。食べ物、文化、日本のニュース、言語、一時帰国…などなど。」についていろいろなお話を聞くことができました。

◎6月23日（金）西日本懇親会 京都左京区

参加者9名（非会員2名）

大阪地裁で国籍法11条1項の国籍剥奪違憲訴訟の裁判を起こされた大学教授を囲んで、お話を伺いながら交流会を持ちました。この件に関心を持ってくださっている京都市議会議員も交流会に参加されました。

◎7月9日（日）オンライン 星野ルネさんの講演「日本育ちのアフリカ少年」

12名の参加でした。カメルーン生まれで、4歳から日本で育った星野ルネさんは、「アフリカ少年が日本で育った結果」という漫画の著作や、タレント活動、SNSによる発信活動などを通じて活躍されています。幼いころから日本社会を歩んできた星野さんの人生、日本とカメルーンで経験なされたこと、視点の違いなど大変興味深い貴重なお話でした。

JAIFとして出発して4年目に入りました。会のホームページもさらに充実し、興味深いイベントも数多く開催されています。

寄稿して下さった皆様ありがとうございました。さすが国際家族ですね、世界中の風光明媚な観光地のレポートが集まりました。すぐにでも行ってみたい所ばかりです。国籍法改正についての記事も素晴らしいです。皆さまのご感想をお待ちしています。

コールマンひろみ

会報誌の編集を通じて、国際家族の色々な生活が見えて楽しいです！最近では若い国際結婚家族の繋がりも増えてきました。若い国際結婚夫婦にとっては、国際法など分からないコトばかりです。問題があることにも気づくことすら出来ません。今後も会の発信を通じて、若い国際結婚家族の悩みやトラブルが減らせたなら嬉しいです！

三好 郁也

国際結婚についてもっと気軽に考えてもらえるように「マンガで届ける国際結婚」が始動しました。インスタグラムでの発信も始まりました。会のアカウントのフォローと投稿のシェアをしていただくと幸いです。ご意見、ご感想、「次はこんなトピックをマンガで読みたい」というご要望もお待ちしています。

清麻桐

次回予告 | 会報誌第12号 (2023年11月30日発行予定)

特集：●『世界の動物たち』



会報も今回で11号となります。現在、JAIF会員の半数以上は海外在住者です。会員の皆さまのペットや身近な動物たちについてご紹介頂けると嬉しいです。写真がありましたら、それも添付ファイルで送ってください。初めての方も書きやすいテーマだと思いますので、奮ってご投稿お願いいたします。きっと、国際色豊かな会報になると思います。

締切は、**2023年10月31日 (火)** です。よろしく申し上げます。
会報係新メールアドレスはこちらです。edit@kokusaikazoku.com

コールマンひろみ、清麻桐、三好郁也